

## 会場からの発言

### (中学生の親御さんより)

- ・ 家庭教育は、子どもたちの人間教育の最も重要な基盤であること、それを支えていくのがこうした地域での活動であり、地域の力で教育力を補うことができるという示唆に富んだお話でした。こういった事例を参考に、家庭において、地域において、また、職場においても活動させていただきたいと感じました。現在抱えていらっしゃる課題、若しくは今後の活動に関する抱負がありましたら、参考までに拝聴させていただきたいと思います。



### (課題と抱負について、「長泉イチゴ会」の大橋さんより)

- ・ 課題についてですが、私たちの場合は15年度のPTA会長が核になり、16年度からコンソーシアムをやっておりますが、どうしても同じような方に固まりやすい。私たちの会では、現職の方にはどちらかというサポートをお願いするような形になっておりますので、そういったつながりがこれからの課題かなと思います。
- ・ これからの展望としては、先ほど紹介した「富士山ふもとの楽校」は裾野市と長泉町のコンソーシアムで共同してやっているということで、これは日頃の人間関係から生まれた一つのコラボレーションです。このように人が人を巻き込んで、自分たちにないものをやるという流れ、長泉町の人材が裾野に活用できるならば、裾野でも新鮮な気持ちでやれるのではないかと思います。

### (児童の父親より)

- ・ 「長泉イチゴ会」の活動にある通学合宿のことで、聞きたいことがあります。婦人会、老人会、子ども会が「通学合宿」を通じて接点を持ったというお話でしたが、PTA役員の方だけの参加だったのか、一般の保護者も参加できたのか。また、泊まる場所は学校だったのか。活動に興味があり、地域の子どもたちのことを考えて参加したいと思います。



### (「長泉イチゴ会」の大橋さんより)

- ・ 第1回目はPTAや子ども会に関わっていません。コンソーシアムが核になり、あと2つの子育て団体とやりました。2回目からは、学校の子どもたちに関わっていることですから、PTAと子ども会、婦人会の方々にもご協力いただきました。
- ・ 長泉町では3回実施しまして、偶然にも各小学校区で1回ずつ開催できました。1回目は

神社、2回目は地区のセンター、3回目は公民館でやりました。食事をいろいろ作って研究されているグループの方々は、普段子どもとは接点がありませんが、我々コンソーシアムの中のお母さんであったり、おばあちゃんであったりする。そういうグループを巻き込む形でやっています。

### コーディネーター福永先生のまとめ

- 皆様方の活動の共通点として、地域の中で異世代の交流が行われている。交流というのは縦横の関係の中で、非常に深い精神的な関わり、こういったものが存在していると感じました。このことが子どもたちに心のリファイナルとか信頼感を育てているのではないかととてもすてきなすばらしい子どもが育っていると思っています。
- 2点目は、地域の中でごく日常的なことが楽しく行われているということでもあります。本当は楽しくではないとは思いますが、親の負担も少なくというお話もございました。こういった活動を通して、子どもも親も達成感や満足感、あるいは自信といいましょうか、そういったものが育ってきているのではないかと。
- 3点目が、地域の中で、まず親同士が顔見知りになることから出発点としてこの活動が行われているということ。これが共通点ではなかったかなと思います。
- こうした地域の力とは一体どういうものなのだろうと、お話を伺いながら感じておりましたが、まず親同士の心をつなぐ力、これが一つ前提になるのかなと思いました。それから親と子どもの心をつなぐ力、そしてつなぐだけではなく、このつながりを地域の中で組織化していく、そしてそれを実践していく力、これも地域の力と受け取りました。そしてその実践は地域の中で地域の人によって、実践していくという力、そういう実践の中で、実践を通して、子どものすばらしさ、子育てのすばらしさ、これを実感させる地域活動であると感じたところでもあります。上川大臣からお話があったと思いますが、活動がお互いに連携を持って地域の中で広がっていく、今日の発表の中にもありました。これが、やはり地域の力と感じたところがございます。
- こういう地域の力を育てていくためにどういったことが必要なのか。まず、先ほど申し上げましたように親同士が知り合いになること、1人でもいい、2人でもいい、知り合いになる。そして子どものこと、家族のことを話し合う、そういうところから出発する実践であつたらうと思います。その話し合いの中で、子どもや家庭の問題について、地域の人たちが共通理解を持つことが出発点になるだろうと思います。
- 子育て、あるいは家庭の機能を果たすためには、やはり地域の人々の支えが必要であると思います。地域の子どもたち、あるいは家庭の親が、地域の人たちに支えられて子育てをしていくというシステムが地域の中に構築される。そうすることによって、子育てに安心感が持てる。こういうことにつながっていると思います。
- 安心感が持てるような地域のシステムが、今日発表された4つの事例ですが、たくさん行われているということでもあります。こうした活動が行われている地域の子どもは、おそらく順調に育っているだろうと思いますし、また、家庭の機能も果たされているのだろうと思います。これが地域全体に広がっていくことを期待したいなと感じております。

## 上川大臣より講評

- 今、子どもたちを取り巻く環境はなかなか厳しい状況です。先ほど児童虐待の予防というご報告がありましたが、例外ではなくなりつつあります。携帯電話を通して有害な情報が流されておりますが、実は親御さんの目が届いていないということもあります。
- 子どもの心の中に親がしっかりと存在している、親の存在感があることが大切ではないか、と思います。親御さんも自分のこと、家族のことに一生懸命なので、なかなか子どもさんの心の育ちに気づかないことが多いかもしれません。その気づきの機会として、地域の様々な活動が意味をもってくるのではないかと思います。
- 私自身、本日、親としても様々な気づきをさせていただきました。本日ご参加いただいた皆様は、地域の中で子どもたちのことを一生懸命考え、活動していらっしゃる方たちです。それぞれの活動について情報交換をしていただくことによって、更に子どもの育ちの環境を大きく広げていただくきっかけになるものと信じております。
- 分科会が大変有意義な場になりましたことを心から感謝し、また、それぞれのフィールドでご活躍いただきますようご期待申し上げ、講評と代えさせていただきます。本日は、ありがとうございました。



## (2) 親子ふれあいコーナー等の視察

大会においては、講演や分科会を行うとともに、家族で参加・体験し、多世代の人たちとふれあえる親子ふれあいコーナーが設けられ、大臣は視察を行いました。



「親子交流広場」で新聞遊び



異なる年齢の子どもたちが一緒になって遊ぶ「子どもプログラム」



親子で朝食クイックメニューに挑戦



おいさに笑みのこぼれる上川大臣



託児コーナー



石川知事から県の取組内容を聞く  
上川大臣

さらに、高校生や青年会議所メンバーら出演による、「家族への想い」「家族の大切さ」を訴える創作劇も鑑賞しました。



創作劇を熱演する高校生



私たちにとって家族とは

## ■大臣からのメッセージ

～平成19年度子育てを支える「家族・地域のきずな」フォーラム静岡大会への参加を終えて～

「家族の日」に富山県を皮切りに開催された「家族・地域のきずな」フォーラムの第3回の大会が静岡県で開催され、私も参加させていただきました。私の大臣就任前に開催地が決まっていたこととはいえ、静岡県は私の地元であり、感慨もひとしおです。午前中参加した、「子育てを支える地域の力」をテーマとするシンポジウムでは、子育て支援活動を展開している団体の方々等と意見交換をさせていただきました。その際、印象に残った言葉は前述のとおりですが、子どもを育てている親と、親を応援する地域が元気でないと、その中で子どもたちは健やかに育たないということです。一方で、いま子育て家庭と地域とがつながりを持つ場が着々と生まれています。こうした取組こそが「地域のきずな」を生み出し、子どもたちの健やかな育ちを実現していくものと改めて確信しました。

最後に、このようなフォーラムを開催するにあたって多大なご尽力をいただいた静岡県をはじめ、多くの県民の皆様に心より感謝申し上げます。



全体大会であいさつする上川大臣

(以 上)